

長崎県総務部
学事振興課長 様

学校名 (海星中学高等学校)
校長名 (武川 眞一郎)

令和2年度学校自己評価結果について (報告)

このことについては、下記のとおりです。

記

1 令和2年度学校自己評価結果の概要 (特筆すべき結果等) について

令和2年度は「コロナウイルス感染症予防の徹底・清潔な住みよい学校造り」とここ数年の重点目標である「海星の生徒としてのプライドを持ち、海星の一員であることを自覚する」「清掃・挨拶・マナーの徹底」を掲げ、カトリック学校として全人教育の実践に励んだ。また昨年度学校の近未来地図として位置づけた「勉強も頑張る海星、部活も強い海星」の具現化のため、『授業・カリキュラム見直し』『部活動強化策』『講座制』の準備を整えた。

はじめに『コロナウイルス感染予防の徹底』に関しては以下の指導と対策を講じた。マスク着用および教室内換気の徹底、生徒・教職員の起床時の検温、自席での食事と食堂利用時の座席指定、手指消毒場所の複数箇所設置、さらに生徒本人の発熱時や家族内の健康状態の状況によっては保護者の判断より登校を控え、学校はそれを欠席扱いとせず、無理な登校をしないことでウイルス感染リスクの抑制に努めた。校内におけるコロナウイルス感染予防に対する生徒たちの意識も高く、教職員と生徒が同じ目的の下、学校全体でコロナウイルス感染予防に徹した。4段階評価の生徒アンケートの結果、「清掃」「健康で安全」の項目では3以上の評価が85%以上を占め、コロナウイルス感染予防対策の徹底から生徒達の「清潔な住みよい学校造り」に対する意識の高さが数値となって表れたと言える。「挨拶」「マナーの徹底」の項目では生徒指導部が中心となり生徒登校時の挨拶・声かけや全ての授業の始業・終業時の号令・挨拶を励行した。4段階評価の生徒アンケートの結果では3以上の評価が89%強だった。挨拶をすることは相手に敬意を払いコミュニケーションのスタートであり最も大事な行いの一つであることを説いている学校にとって、この項目に関しては更に高い評価に近づきたい。「マナーの徹底」については、登下校時の歩行マナーはじめ、公共施設使用時のマナー指導、特に今年度は公共施設使用時のマスク着用の徹底を呼びかけ、社会で生活する一員としての自覚をもった振る舞いを身につけるように生徒指導部だけでなく、学年集会や各ホームルームを通して継続的な指導にあたった。残念ながら地域の方々からは校外における生徒の行動についてご指摘を度々頂くこともあったが、その度に生徒指導部からクラス担任を通して生徒達にその内容が伝えられ、学校はクラス担任を中心に根気強い指導を施した。4段階評価の生徒アンケートの結果では「基本的な生活習慣が身につく指導」の項目で3以上の評価が85%だった。マリアニストスクールの教育観の下で人格形成・社会性を育む場において、本校では生徒自身が学校生活を通して客観的に自身の心身の成長を実感できるように、この評価値が更に上昇できるような教育活動を実践したい。今年度も昨年度に引き続きスクールカウンセラーやスクールチャプレンを設置し、生徒たちが抱える悩みや不安を軽減できるよう生徒たちの心の成長にも寄り添っている。また学校長、教頭、生徒指導部長、学年主任そして教育相談委員から構成される『いじめ対策委員会』では週に1度生徒の生活上における情報交換会を開き生徒の僅かな異変にも対応できるように安全管理に努めている。一方、管理営繕部による学校施設の点検・整備により、住みよい安全で清潔な生活環境が保たれている。4段階評価の生徒アンケートの結果では「学校設備整備」「健康で安全な学校生活に配慮」の項目ではともに86%を超え、校内施設の整備と安全が生徒たちにも目に見えて実感できていることを表す高い数値だった。

学校はマリアニストが唱える「全人教育」の具現化のため、保護者はじめ地域社会の方々に本校の教育活動に理解と協力を頂きながら生徒達の感性・徳性を重視し、社会性の育成・社会規範の確立・希望進路の実現の為、教職員が一丸となりマリア会の学校としての使命を果たしたい。

2 生徒による授業評価について (実施の有無) : 実施 (○) 未実施 ()

※保護者アンケートと同様に4段階評価で全生徒に実施。(「4」の評価が上)

■全教員の平均値

	平成30年	令和元年	令和2年
高 校	3.34	3.33	3.37
中 学	3.42	3.39	3.40

■教科別(5教科)の平均値 ※中学は「社会」

	国 語	数 学	英 語	※地歴公民	理 科
高校	3.33	3.33	3.41	3.47	3.32
中学	3.45	3.36	3.53	※3.41	3.28

[高 校]

全教員の平均値においては、過去2年間合せて最も高い数値となった。アンケートでの3以上の評価の割合を見ると、最も高いものから「適切な教材を準備してくれるため理解しやすい」93.2%、「質問への丁寧な対応」92.9%、「考える・練習する時間の適度な確保」で91.1%であった。他の項目でも88%を超える高評価が殆どで生徒達の授業に対する満足度・充実度が高い数値が出ている。各教科において各コースやクラスに応じた課題提供と生徒の理解度を意識した授業が生徒たちの「分かりやすい」から「解けた。理解できた。」と学びの充足感に結びついたと推測される。また教員は授業の工夫だけでなく、生徒からの質問にも積極的に向き合い、生徒一人一人の学び直しから実力伸長のサポートに時間を充てるなど個人指導を重視し、生徒の学力向上に接している。これはICT活用がその一端を担っている。また高校1年生フロンティアコースでは『講座制』が開始された。この取り組みは令和3年度以降も継続され更に対象がエランコースへと広げられ、従来型の受動的な授業の聴講ではなく、生徒自身が興味関心のある講座内容を選択し授業に参加する能動的な学習に切り替わる。今年度はキュビナを使用した数・英の弱手克服学習と基礎基本学習の徹底が能率良く効果的に展開された。次年度は月曜日から木曜日の7時限目の時間帯に2学年およそ25講座が設定される予定である。キュビナをはじめとしたAI機能を導入することで学びの裾野は広がり多面的な学習環境は更に深化・充実が図られる。学校は生徒の進路保障を確保すると同時に、価値観が多様化し絶え間なく変化し続ける社会の中で、生徒が何の為に何を学び、将来それをどのように活かして社会貢献できるかなど卒業後の自身の姿を客観的に考える機会を与えながら生徒の成長を見守り魅力ある教育を今後も益々提供していく。

[中 学]

全教員の平均値と教科別の平均値においては高校と同様に、過去2年間と比較すると大きな増減は見られなかった。生徒対象アンケートでの3以上の評価の割合を見ると、「わかりやすい授業」の項目で90.6%、「質問への丁寧な対応」の項目で92.9%、「考える・練習する時間の適度な確保」の項目で91.1%であった。授業・指導に対する全ての項目で3以上の評価の割合が90%を超えている。この数値はAI機器を積極的に用いた授業や個人指導が能率的に展開されたと同時に、教科担当者が生徒一人一人の習熟度合いを把握し、適切な課題提供ときめ細かな指導の評価の結果と考えられる。また、学校が取り組んだ『自発的な学習の意識付け・習慣づけ』が生徒たち自身も実感でき、学習内容の効果的習得が実践された表れである。さらに自発的な学習の意識付けを体言化するために高校と同様に講座制を用いた。英検、動画編集、スポーツ、異文化講座など多岐に渡る内容は生徒たちの学習意欲や向学心を刺激し、今後の進路選択の一助になることと確信する。今後学校は建学の精神のもと、価値観が多様化し、日々変化する生活環境の中で生徒の人格形成・多面的な成長の為、魅力・責任ある教育を提供し続けなければならない。

3 学校自己評価結果の公表方法について

- 文書化したものを保護者に配布。その後学校HPに公表する。

4 令和2年度学校自己評価結果の活用方法・令和3年度学校運営への反映について

- 教科毎の分析会を開き、指導力・授業力の向上に役立てる。
- 学年・コース毎に模試結果の分析を行い、今後の対策を図るミーティングを実施し指導に反映させる。
- 教員個別の指導力強化。